

令和 5 年度
第 3 回学校運営協議会兼
第 3 回学校関係者評価委員会

第 3 回学校関係者評価委員会資料
学校評価アンケート結果より



令和 6 年 3 月 5 日
生駒市立生駒北小学校

資料(アンケート)

1・2年 児童アンケート(オンライン)

じぶんのことをおもいだして、こたえましょう。あてはまるばんごうに○をつけましょう。

ねん くみ なまえ ()

		思いだすこと	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
がくしゅう	1-①	じゅぎょう中はともだちのはっぴょうをじぶんのいけんとくらべながらきき、しっかりとかがえた。	4	3	2	1
	1-②	じゅぎょう中はすすんではっぴょうし、じぶんのいけんやかがえをいうことができた。	4	3	2	1
	1-③	1年生は20ぶんかん、2年生は30ぶんかん、かていがくしゅうをした。	4	3	2	1
	1-④	さどうきょうしつやさほうきょうしつなどで、日本のぶんかやしきたりについて、きょうみをもってべんきょうした。	4	3	2	1
	1-⑤	じゅぎょうやかていがくしゅうで、タブレットをせっきょくてきにかつようした。	4	3	2	1
	1-⑥	いえて、10ぶんいじょう、本をよんでいる。	4	3	2	1
	1-⑦	たのしくえいごのがくしゅうをした。	4	3	2	1
せいかつ	2-①	がっこうせいかつのきまりや、こうつうルール、ともだちとのやくそくをまもった。	4	3	2	1
	2-②	がっこうのせんせい、ともだち、きんじょの人に、ていねいなことばをつかった。	4	3	2	1
	2-③	いじめたり、わるぐちをいったりして、あいてをきずつけるようなことをしなかった。	4	3	2	1
	2-④	ともだちや年下の子をたいせつにして、なかよくできるようにした。	4	3	2	1
	2-⑤	ががかつやどうとくのじかんに、じぶんもともだちもたいせつにするためにはどうすればよいかをかがえた。	4	3	2	1
	2-⑥	じぶんやまわりの人をきずつけないためにタブレットはただしくつかおうとした。	4	3	2	1
あけんぜこう	3-①	やすみじかんは、そとに出てあそんだり、うんどうしたりした。	4	3	2	1
	3-②	けんこうのことをかがえて、きれいなものやにがてなものもがんばってたべようとした。	4	3	2	1
	3-③	たいいくのじかんには、しっかりと体をうごかしてうんどうした。	4	3	2	1
がっこう	4-①	いこまきたしょうちゅうがっこうは、たのしい。	4	3	2	1
	4-②	こころにのこるがくしゅうやうんどう、ぎょうじがあった。	4	3	2	1

3・4年 児童アンケート(オンライン)

じぶんのことを おもいだして、こたえましょう。あてはまる ばんごうに ○をつけましょう。

ねん くみ なまえ ()

		思いだすこと	そう思う	どちらかといえはそう思う	どちらかといえはそう思わない	そう思わない
がくしゅう	1-①	じゅぎょう中は 友だちのはっぴょうを 自分のいけんとくらべながらきき、しっかりと考えた。	4	3	2	1
	1-②	じゅぎょう中は すすんではっぴょうし、自分のいけんや考えを言うことができた。	4	3	2	1
	1-③	3年生は40分間、4年生は50分間、家庭学習をした。	4	3	2	1
	1-④	さどう教室や さほう教室などで、日本の文化やしきたりについて、きょうみをもってべんきょうした。	4	3	2	1
	1-⑤	じゅぎょうや家庭学習で、タブレットをせっきょくてきにかつようした。	4	3	2	1
	1-⑥	家で、20分いじょう、本を読んでいる。	4	3	2	1
	1-⑦	楽しく えいごの学習をした。	4	3	2	1
せいかつ	2-①	学校生かつのきまりや、交通ルール、友だちとのやくそくをまもった。	4	3	2	1
	2-②	学校の先生、友だち、近所の人に、ていねいなことばを使った。	4	3	2	1
	2-③	あいてをきずつけないように、いじめたり、わる口を言ったりするようなことをしなかった。	4	3	2	1
	2-④	友だちや年下の子を大切に、なかよくできるようにした。	4	3	2	1
	2-⑤	学活や道徳の時間に、自分も友だちも大切にするためにはどうすればよいかをしっかりと考えた。	4	3	2	1
	2-⑥	自分やまわりの人をきずつけないためには どうすればよいかをしっかりと考えて、タブレットなどを利用した。	4	3	2	1
あけんぜこう	3-①	休み時間は、外に出てあそんだり、運動したりした。	4	3	2	1
	3-②	けんこうのことを考えて、きれいなものやにが手なものもがんばって食べようとした。	4	3	2	1
	3-③	体育の時間には、しっかりと体を動かして運動した。	4	3	2	1
がっこう	4-①	いこま北小中学校は、楽しい。	4	3	2	1
	4-②	心にのこる 学習や運動、ぎょうじがあった。	4	3	2	1

5・6年 児童アンケート(オンライン)

自分のことを思い出して、答えましょう。当てはまる番号に○をつけましょう。

年 組 名 前 ()

		思い出すこと	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
学習	1-①	授業中は、友だちの意見や発表を自分の意見と比べながら集中して聞き、しっかりと考えた。	4	3	2	1
	1-②	授業中は進んで発表し、自分の意見や考えを述べた。	4	3	2	1
	1-③	家で1時間、家庭学習をした。	4	3	2	1
	1-④	日本の文化やしきたりについて、興味を持って勉強した。	4	3	2	1
	1-⑤	授業や家庭学習で、タブレット端末を積極的に活用した。	4	3	2	1
	1-⑥	家で30分以上、本や新聞を読んでいる。	4	3	2	1
	1-⑦	英語の授業にしっかり取り組み、英語で会話をしたり、自分のことを発表したりした。	4	3	2	1
生活	2-①	学校生活のきまりや交通ルール、友だちとの約束を守った。	4	3	2	1
	2-②	学校の先生、友だち、近所の人に、ていねいで適切な言葉を使った。	4	3	2	1
	2-③	友だちと仲良く過ごし、相手の気持ちが傷つかないように、いじめたり、陰で悪口を言ったりしなかった。	4	3	2	1
	2-④	年下の子を大事にし、年下の子からしたわれたり、たよられたりした。	4	3	2	1
	2-⑤	学活や道徳の時間に、自分も友だちも大切にするためにはどうすればよいかをしっかりと考え、行動した。	4	3	2	1
	2-⑥	自分や周囲の人の人権を守るためにはどうすればよいかをしっかりと考えて、タブレット等の情報機器を利用した。	4	3	2	1
健康安全	3-①	休み時間はなるべく外に出て遊んだり、運動したりしている。	4	3	2	1
	3-②	健康のことを考え、苦手なものやきらいなものも、がんばって食べようとした。	4	3	2	1
	3-③	体育の時間には、しっかりと体を動かして運動した。	4	3	2	1
学校	4-①	生駒北小中学校は、楽しい。	4	3	2	1
	4-②	心に残る学習や運動、行事があった。	4	3	2	1

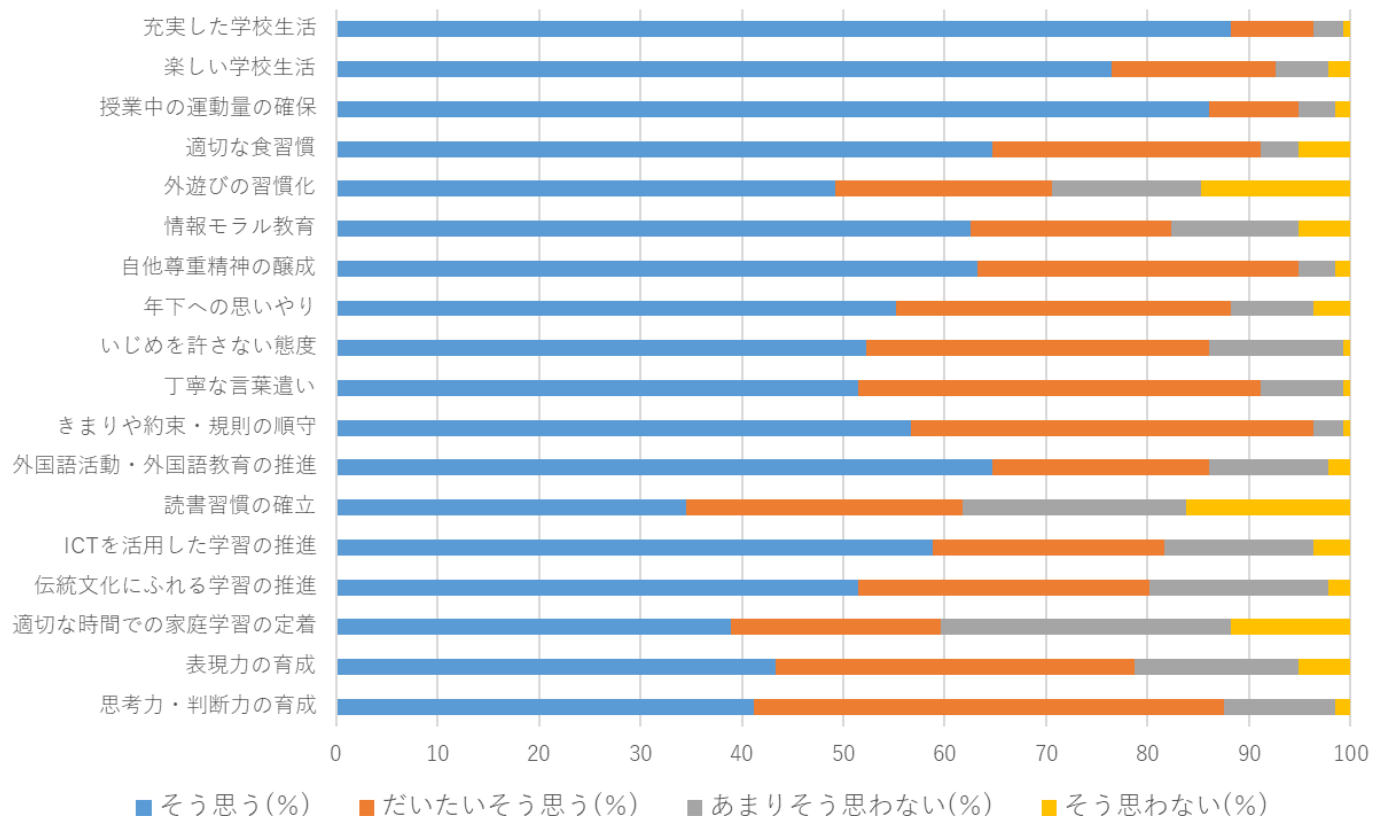
R5年度末 全校児童アンケート

分類	番号	全校		そう思う (%)	だいたいそ う思う(%)	あまりそ う思わ ない (%)	そう思わ ない(%)	肯定意見 (%)	否定意見 (%)
		項目							
学 習	1-①	思考力・判断力の育成		41	46	11	1	88	13
	1-②	表現力の育成		43	35	16	5	79	21
	1-③	適切な時間での家庭学習の定着		39	21	29	12	60	40
	1-④	伝統文化にふれる学習の推進		51	29	18	2	80	20
	1-⑤	ICTを活用した学習の推進		59	23	15	4	82	18
	1-⑥	読書習慣の確立		35	27	22	16	62	38
	1-⑦	外国語活動・外国語教育の推進		65	21	12	2	86	14
生 活	2-①	きまりや約束・規則の順守		57	40	3	1	96	4
	2-②	丁寧な言葉遣い		51	40	8	1	91	9
	2-③	いじめを許さない態度		52	34	13	1	86	14
	2-④	年下への思いやり		55	33	8	4	88	12
	2-⑤	自他尊重精神の醸成		63	32	4	1	95	5
	2-⑥	情報モラル教育		63	20	13	5	82	18
安 全 健 全	3-①	外遊びの習慣化		49	21	15	15	71	29
	3-②	適切な食習慣		65	26	4	5	91	9
	3-③	授業中の運動量の確保		86	9	4	1	95	5
学 校	4-①	楽しい学校生活		76	16	5	2	93	7
	4-②	充実した学校生活		88	8	3	1	96	4

 肯定的意見の割合が85以上
 否定的意見の割合が31以上

 肯定的意見の割合が90～100
 肯定的意見の割合が80～89
 否定的意見の割合が41以上
 否定的意見の割合が31～40
 否定的意見の割合が21～30

R5年度末 全校児童アンケート



児童アンケートの考察

R5年度末 各学年及び全校児童アンケート

分類	番号	項目	肯定的意見(%)						否定的意見(%)							
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
学習	1-①	思考力・判断力の育成	95	85	95	94	88	75	88	5	15	5	6	13	25	13
	1-②	表現力の育成	86	90	95	81	63	66	79	14	10	5	19	38	34	21
	1-③	適切な時間での家庭学習の定着	86	70	100	13	54	34	60	14	30	0	88	46	66	40
	1-④	伝統文化にふれる学習の推進	100	80	100	100	46	69	80	0	20	0	0	54	31	20
	1-⑤	ICTを活用した学習の推進	100	80	100	100	50	72	82	0	20	0	0	50	28	18
	1-⑥	読書習慣の確立	82	60	68	31	46	72	62	18	40	32	69	54	28	38
	1-⑦	外国語活動・外国語教育の推進	95	100	95	94	83	63	86	5	0	5	6	17	38	14
生活	2-①	きまりや約束・規則の順守	100	100	100	100	96	88	96	0	0	0	0	4	13	4
	2-②	丁寧な言葉遣い	100	85	100	94	88	84	91	0	15	0	6	13	16	9
	2-③	いじめを許さない態度	100	85	95	75	79	81	86	0	15	5	25	21	19	14
	2-④	年下への思いやり	95	95	100	88	79	78	88	5	5	0	13	21	22	12
	2-⑤	自他尊重精神の醸成	100	85	100	100	92	94	95	0	15	0	0	8	6	5
	2-⑥	情報モラル教育	100	100	100	100	46	66	82	0	0	0	0	54	34	18
健康	3-①	外遊びの習慣化	95	75	100	81	50	41	71	5	25	0	19	50	59	29
	3-②	適切な食習慣	95	100	91	100	83	84	91	5	0	9	0	17	16	9
	3-③	授業中の運動量の確保	100	100	100	100	88	88	95	0	0	0	0	13	13	5
学校	4-①	楽しい学校生活	100	100	95	100	79	88	93	0	0	5	0	21	13	7
	4-②	充実した学校生活	95	100	100	100	96	91	96	5	0	0	0	4	9	4

肯定的意見が85%以上	肯定的意見90～100%	否定的意見41%以上
否定的意見が31%以上	肯定的意見80～89%	否定的意見31%以上
		否定的意見21～30%

・今回の年度末アンケートで児童の肯定的意見が比較的に高い割合だったのは、「思考力・判断力の育成」「外国語活動・外国語教育の推進」「きまりや約束・規則の順守」「丁寧な言葉遣い」「いじめを許さない態度」「年下への思いやり」「自他尊重精神の醸成」「適切な食育」「授業中の運動量の確保」「楽しい学校生活」「充実した学校生活」の11項目で、いずれも85%以上の児童が肯定的な評価をしている。特に「きまりや約束・規則の順守」「丁寧な言葉遣い」「自他尊重精神の醸成」「適切な食育」「授業中の運動量の確保」「楽しい学校生活」「充実した学校生活」の7項目は、9割以上の児童が肯定的な評価をしており、多くの学年で高い達成率であった。中でも「きまりや約束・規則の順守」「自他尊重精神の醸成」「授業中の運動量の確保」「充実した学校生活」は、96%、95%、95%、96%の達成率であり、今年度の教育活動において十分達成できたといえる。特に「きまりや約束・規則の順守」といった規範意識の獲得は、集団活動の場である学校生活において必要不可欠であり、落ち着いた学習をするうえでも大切な要素である。このことから本校の児童は、多くの児童が落ち着いた学校生活を送っているということがいえ、今年度の教育活動においては大きな問題は無く、概ね安定した教育活動が展開されていたといえる。来年度の教育活動においても、これらの点を大事にして教育活動を進めていきたい。

「思考力・判断力の育成」「外国語活動・外国語教育の推進」「いじめを許さない態度」「年下への思いやり」の4項目は、それぞれが88%、86%、86%、88%であり、今年度の教育活動において目標を達成した

ように思われる。しかしながら、それぞれの項目において学年間で達成率に開きが見られる。来年度の教育活動においては、全ての学年で安定した達成がなされるように取組の強化を図っていきたい。

・肯定的意見の割合が高い項目が一番多い学年は1年生で、18項目中1全項目で肯定的な評価をしている。次いで肯定的な回答が多い学年は3年生で、18項目中17項目で肯定的な評価をしている。2年生、4年生は、18項目中15項目で肯定的な評価をし、5年生、6年生は、18項目中8項目で肯定的な評価をしている。中間期と比べ、いずれの学年でも肯定的評価をする項目が増えており、後半の教育活動において取組の改善が図られ、本校のPDCAサイクルはしっかりと機能しているといえよう。各学年の肯定的評価の項目を見てみると、低学年ほど肯定的意見の割合が高い項目が多く、学年が上がるにつれてその数が減っていることがわかる。これは、学年が上がるにつれて児童が自分自身を俯瞰できるようになり、評価も厳しくなっているということが原因の1つとして考えられ、児童の成長とも捉えられる。しかし、今よりも楽しく充実した学校生活を送るために、また、児童が自身を認められるといった自己肯定感の獲得のために、各項目で肯定評価が多いことがよいのは言うまでもないことである。来年度、引き

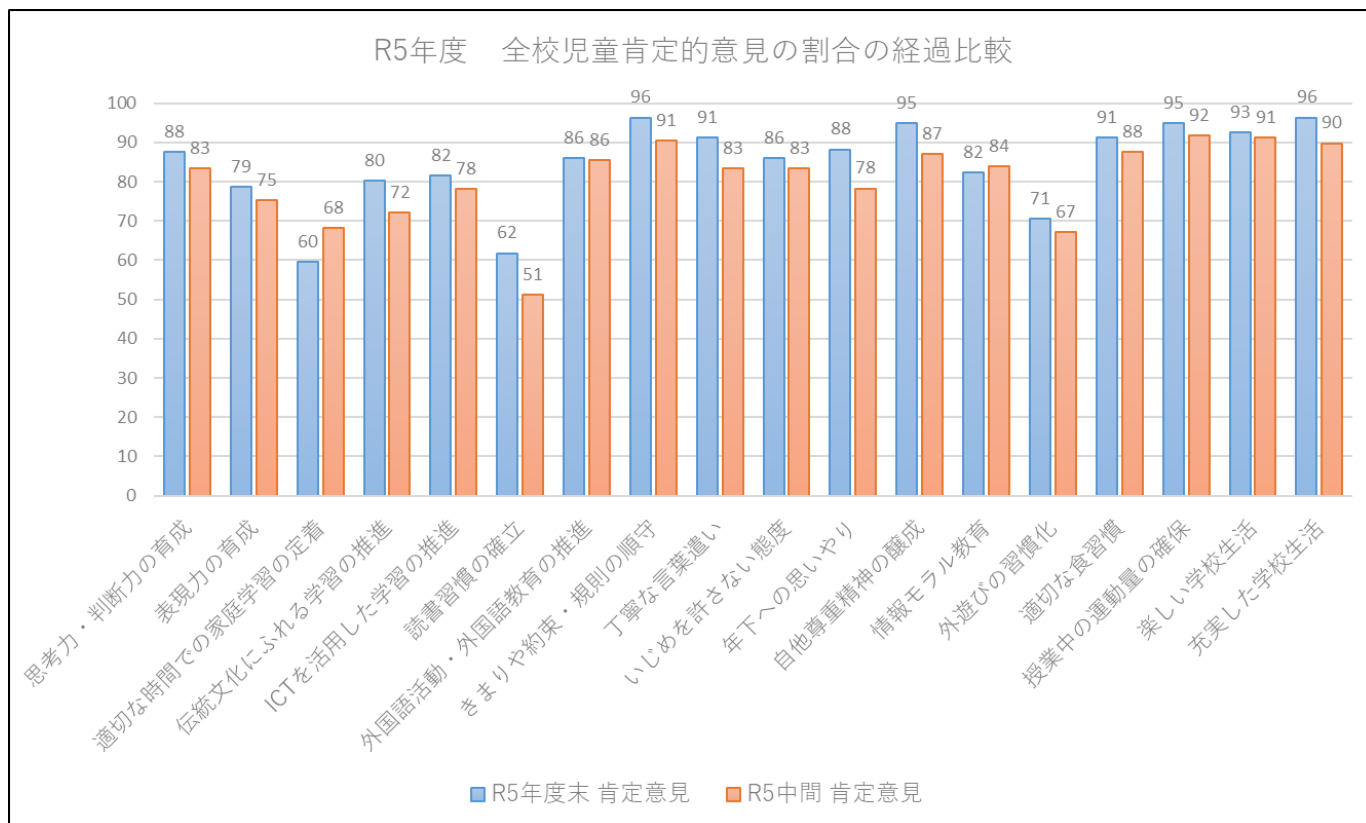
R5年度 全校児童肯定的意見の割合の経過比較

分類	全校肯定的意見の割合経過比較		R5年度末	R5中間	R5年度末	R5中間
	番号	項目	肯定意見	肯定意見	否定意見	否定意見
学習	1-①	思考力・判断力の育成	88	83	13	17
	1-②	表現力の育成	79	75	21	25
	1-③	適切な時間での家庭学習の定着	60	68	40	32
	1-④	伝統文化にふれる学習の推進	80	72	20	28
	1-⑤	ICTを活用した学習の推進	82	78	18	22
	1-⑥	読書習慣の確立	62	51	38	49
	1-⑦	外国語活動・外国語教育の推進	86	86	14	14
生活	2-①	きまりや約束・規則の順守	96	91	4	9
	2-②	丁寧な言葉遣い	91	83	9	17
	2-③	いじめを許さない態度	86	83	14	17
	2-④	年下への思いやり	88	78	12	22
	2-⑤	自他尊重精神の醸成	95	87	5	13
	2-⑥	情報モラル教育	82	84	18	16
安健全康	3-①	外遊びの習慣化	71	67	29	33
	3-②	適切な食習慣	91	88	9	13
	3-③	授業中の運動量の確保	95	92	5	8
学校	4-①	楽しい学校生活	93	91	7	9
	4-②	充実した学校生活	96	90	4	10

改善が見られた項目（10ポイント以上の上昇）	肯定的意見の割合が90～100
改善が見られた項目（10ポイント未満の上昇）	肯定的意見の割合が80～89
改善が必要な項目（否定意見の割合が高く、下降か横ばい）	否定意見の割合が41以上
注意が必要な項目（5ポイント以上の下降）	否定意見の割合が31～40
	否定意見の割合が21～30

続き低評価であった項目に重点的に取り組み、改善を図っていききたい。

・否定的意見が高い割合だった項目は、「適切な時間での家庭学習の定着」「読書習慣の確立」の2項目で、それぞれ 40%、38%の児童が否定的な回答をしていた。「適切な時間での家庭学習の定着」は、1年生、3年生は達成率が 86%、100%であるのに対し、2年生では 70%、4年生では 13%、5年生では 54%、6年生では 34%の達成率となっている。中間期と比べ9ポイントの下降が見られ、注意が必要である。適切な時間で家庭学習を行うという習慣を身に付けておくことは、児童が上級学校へ進学した際に必要不可欠なことである。懇談等を通じて、家庭にも家庭学習の習慣化の重要性を啓発していききたい。「読書習慣の確立」は、中間期と比べ 11 ポイントの上昇が見られ改善が図られているものの、まだ低評価の項目である。読書は、想像力や思考力、判断力の育成に有効であり、その習慣化は是非とも図りたいところである。学校では、学校司書が図書館だよりを発行して読書への意欲付けを図ったり、読書ボランティアによる読み聞かせ活動の実施などの取組を行ったりして、児童が本に親しむ機会を設けている。今までの取組を継続しながら、さらに強化を図っていききたい。また、家庭にも協力を仰いで、児童の読書習慣の確立を目指していききたい。



教員アンケート

R5年度 学校評価（北小） 自己評価

名前（ ）

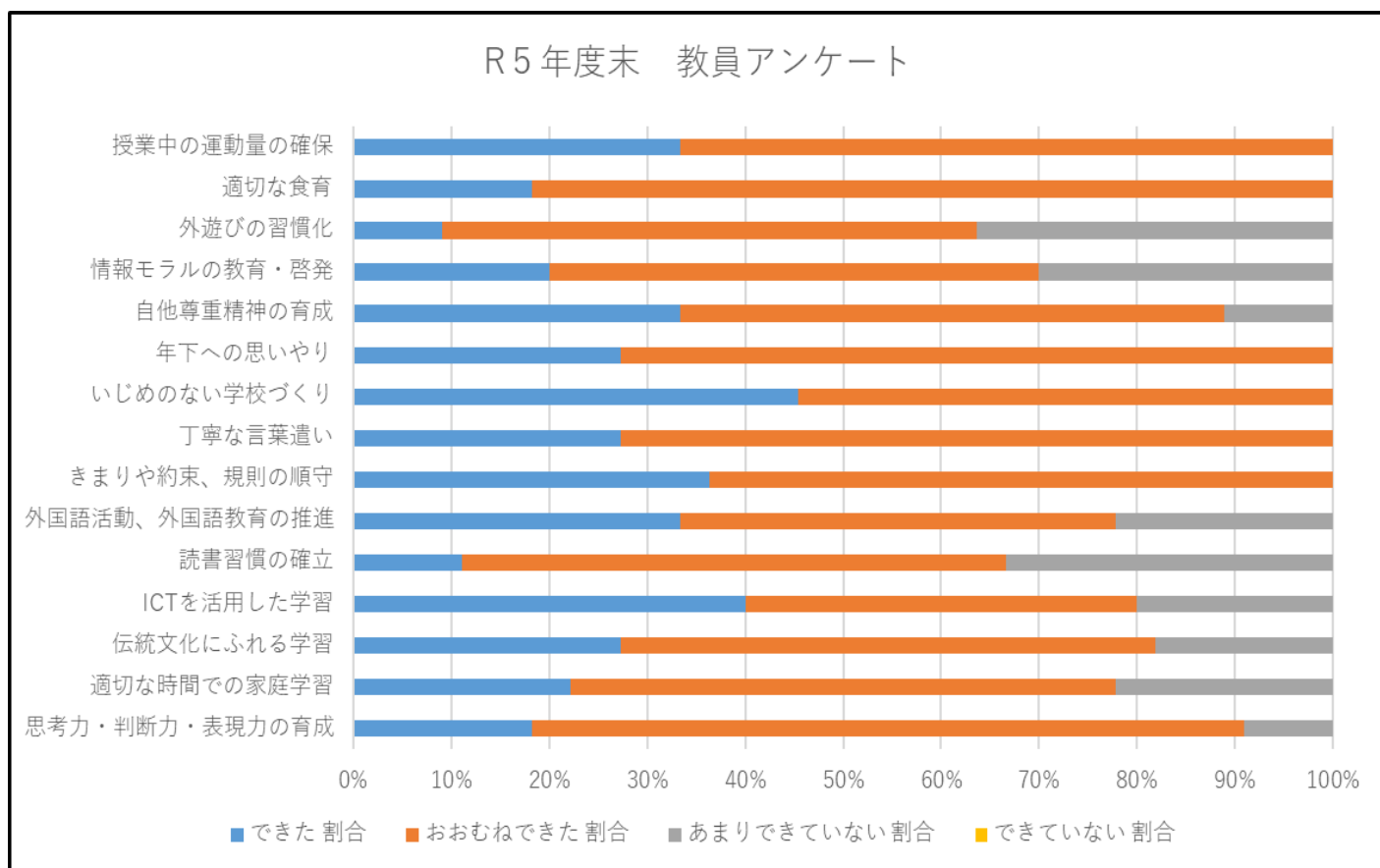
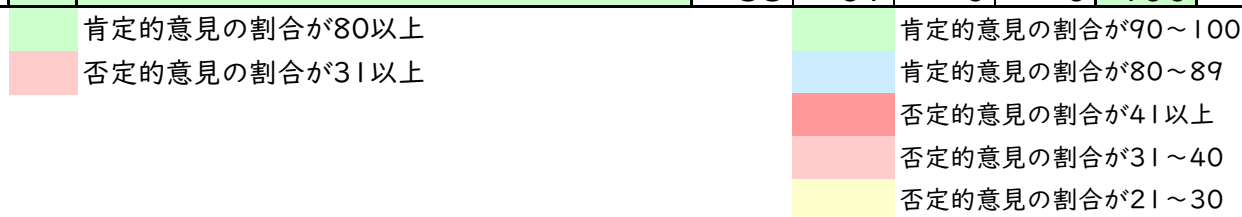
評価指数

4) できた 3) 概ねできた 2) あまりできていない 1) できていない

重点目標・重点課題			達成目標・評価指数	評価
県	生駒市	本校		
知： 確かな 学力の 育成	①課題の発見や解決に向けた主体的・対話的で深い学びの実現②地域と連携した協働活動の充実③グローバル時代に対応した英語教育の推進⑦読書活動の充実	思考力・判断力・表現力の育成	授業中は、自らの意見と比較しながら他者の意見を集中して聞き、進んで意見を述べることでお互いの意見や考えを共有するよう児童に指導した。	
		適切な時間での家庭学習	トライウィークの期間中、学年ごとの目安となる学習時間を提示するなど、児童や家庭へ家庭学習の充実を促した。	
		伝統文化に触れる学習	茶道・作法教室で学ぶ意味や、地域の伝統文化や文化財、和の文化やしきたりについて児童が興味を持てるような取組を行った。	
		ICTを活用した学習	電子黒板やタブレット端末を使った授業を日常的に行い、タブレット端末を活用した個別学習を実現した。	
		読書習慣の確立	児童に家庭でも読書する習慣を身につけさせるために、学校図書館を活用して読書への興味関心を持たせた。	
		外国語活動、外国語教育の推進	ALTなどと協力して主体的・対話的で楽しい授業を展開し、児童に英語や外国文化に興味・関心を持たせ、進んでコミュニケーションをとるように指導した。	
徳： 豊かな 人間性 の育成	④規範意識や情報モラルについて主体的に考える道徳教育の充実⑤自尊感情の醸成⑥全ての児童の心の居場所づくり⑧幼稚園・保育園・こども園との接続ならびに中学校との連携	きまりや約束、規則の順守	学校生活を通じて、ルールやマナーを守ることの大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることの意味を理解させた。	
		丁寧な言葉遣い	相手の立場を思いやった丁寧な言葉遣いをするように、児童に指導した。	
		いじめのない学校づくり	人を傷つける言葉や人をかぶける言葉について各学期に授業を行い、児童にいじめについての指導を行った。	
		年下への思いやり	異学年交流を通じて、児童に年下の子を思いやる心を育んだ。	
		自他尊重精神の育成	学級活動や道徳の時間を通じて、児童に自他を尊重する意識を持たせた。	
		情報モラルの教育・啓発	自他の人権を守るために、正しく情報機器を利用することの必要性を児童に指導し、家庭に啓発した。	
体： たくましい 心身の 育成	⑨健康でたくましい体づくり	外遊びの習慣化	児童に外遊びをすすめたり、一緒に遊んだりして、児童が外で元気に遊ぶように環境を整備した。	
		適切な食育	学活や保健、給食指導を通じて、児童に正しい食生活のあり方を学ばせた。	
		授業中の運動量の確保	児童が意欲的に体を動かすよう体育の授業を工夫し、十分な運動量を確保した。	

R5年度末 教員アンケート

分類	番号	全教員	できた (%)	おおむね できた(%)	あまり できて いない (%)	できて いない (%)	肯定 意見 (%)	否定 意見 (%)
		項目						
確 かな 学 力	1-①	思考力・判断力・表現力の育成	18	73	9	0	91	9
	1-②	適切な時間での家庭学習	22	56	22	0	78	22
	1-③	伝統文化にふれる学習	27	55	18	0	82	18
	1-④	ICTを活用した学習	40	40	20	0	80	20
	1-⑤	読書習慣の確立	11	56	33	0	67	33
	1-⑥	外国語活動、外国語教育の推進	33	44	22	0	78	22
豊 かな 心	2-①	きまりや約束、規則の順守	36	64	0	0	100	0
	2-②	丁寧な言葉遣い	27	73	0	0	100	0
	2-③	いじめのない学校づくり	45	55	0	0	100	0
	2-④	年下への思いやり	27	73	0	0	100	0
	2-⑤	自他尊重精神の育成	33	56	11	0	89	11
	2-⑥	情報モラルの教育・啓発	20	50	30	0	70	30
身 違 の し 育 い 成 心	3-①	外遊びの習慣化	9	55	36	0	64	36
	3-②	適切な食育	18	82	0	0	100	0
	3-③	授業中の運動量の確保	33	67	0	0	100	0



教員アンケートの考察

・今回のアンケートで、教員の肯定的意見の割合が高かった項目は、「思考力・判断力・表現力の育成」「きまりや約束、規則の順守」「丁寧な言葉遣い」「いじめのない学校づくり」「年下への思いやり」「適切な食育」「授業中の運動量の確保」の7項目であり、90%以上の教員が肯定的に評価している。また、比較的肯定的意見の割合が高かった項目は「伝統文化にふれる学習」「ICTを活用した学習」「自他尊重精神の育成」の3つであり、80%以上の教員が肯定的に評価している。

・否定的意見が高い割合だった項目は、「読書習慣の確立」「外遊びの習慣化」の2項目であり、教員自身が取組に改善の余地があると感じている項目と思われる。「読書習慣の確立」は、中間期に比べて肯定的意見が17ポイント上昇し、「外遊びの習慣化」は、中間期に比べて肯定的意見が18ポイント上昇した。しかし、いずれも肯定的意見が60%台であり、まだまだ低評価な項目である。この2つの項目については、児童も低評価をしており、早急な改善が必要と考えられる。引き続き、取組の改善を図っていきたい。読書は、想像力や思考力、判断力の育成に有効であり、その習慣化は是非とも図りたいところである。学校

R5年度 教員肯定的意見の割合の経過比較

分類	番号	全教員	肯定意見	肯定意見	否定意見	否定意見
		項目	年度末%	中間%	年度末%	中間%
確かな学力	1-①	思考力・判断力・表現力の育成	91	60	9	40
	1-②	適切な時間での家庭学習	78	67	22	33
	1-③	伝統文化にふれる学習	82	70	18	30
	1-④	ICTを活用した学習	80	55	20	45
	1-⑤	読書習慣の確立	67	50	33	50
	1-⑥	外国語活動、外国語教育の推進	78	67	22	33
豊かな心	2-①	きまりや約束、規則の順守	100	91	0	9
	2-②	丁寧な言葉遣い	100	100	0	0
	2-③	いじめのない学校づくり	100	100	0	0
	2-④	年下への思いやり	100	64	0	36
	2-⑤	自他尊重精神の育成	89	78	11	22
	2-⑥	情報モラルの教育・啓発	70	56	30	44
身のし育い成心	3-①	外遊びの習慣化	64	45	36	55
	3-②	適切な食育	100	100	0	0
	3-③	授業中の運動量の確保	100	80	0	20

改善が見られた項目（10ポイント以上の上昇）

改善が見られた項目（10ポイント未満の上昇）

改善が必要な項目（否定意見の割合が高く、下降が横ばい）

注意が必要な項目（5ポイント以上の下降）

肯定的意見の割合が90～100

肯定的意見の割合が80～89

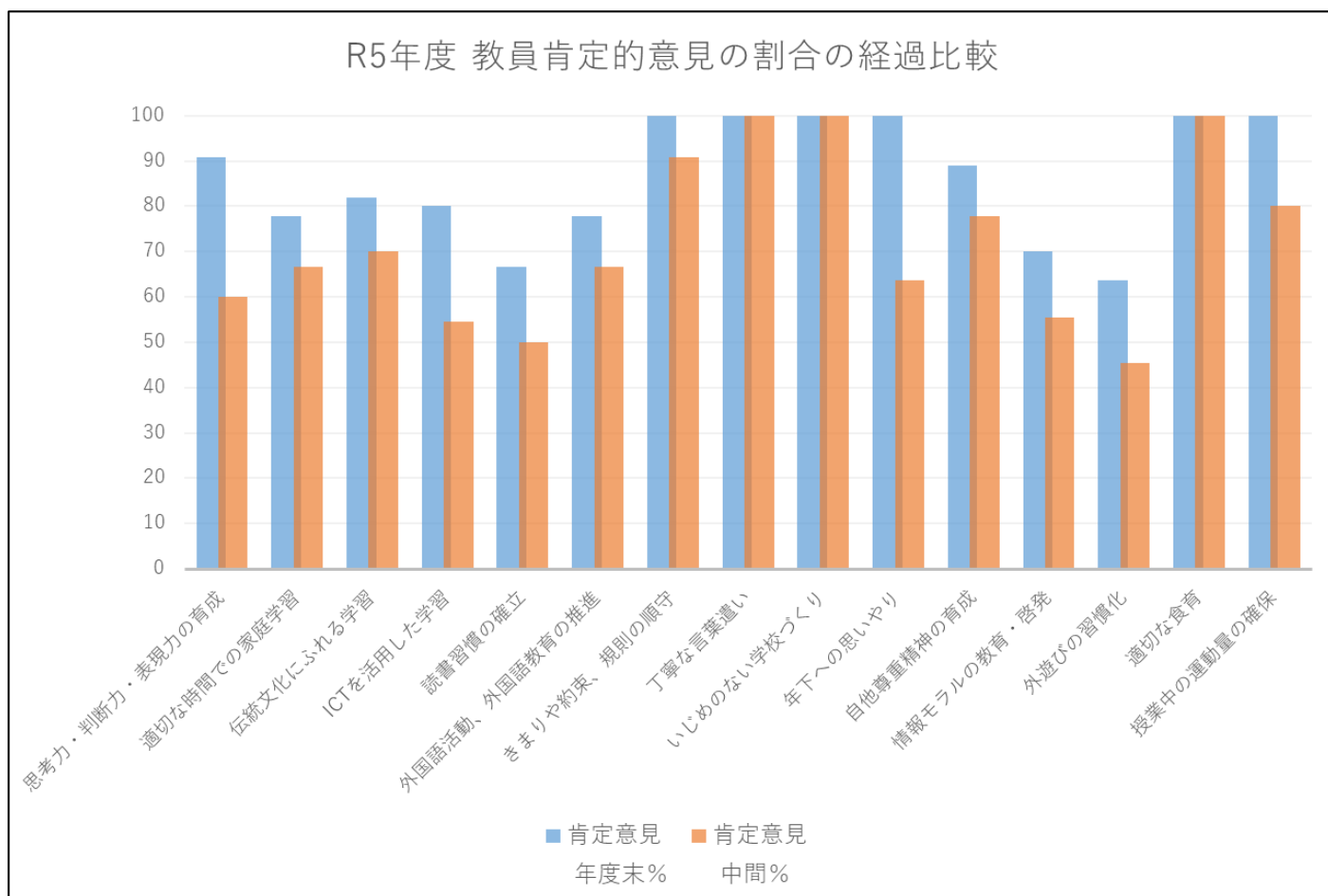
否定的意見の割合が41以上

否定的意見の割合が31～40

否定的意見の割合が21～30

では、学校司書が図書館だよりを発行して読書への意欲付けを図ったり、読書ボランティアによる読み聞かせ活動の実施などの取組を行ったりして、児童が本に親しむ機会を設けている。今までの取組を継続しながら、さらに強化を図っていききたい。3年にも及ぶコロナ禍の影響で、児童の体力が落ちてきている。うきうきタイムを活用し、外遊びを奨励することで児童の体力向上を図るとともに、生涯にわたって運動に親しむ素地を児童らに育成していききたい。

・教員は児童、保護者と比べると、全体的に取組に対しての肯定的意見の割合が高く、肯定的に捉える項目も多い。中間期と経過比較すると、ほとんどの項目で肯定的意見の割合が上昇している。各々の教員が、中間期のアンケート結果を踏まえて取組の改善を試みたと思われる。15項目中12項目で肯定的意見の割合が上昇しており、その内11項目で10ポイント以上の上昇が見られた。このことから、本校の学校評価における PDCA サイクルはしっかりと機能していると考えられる。今年度、明らかになった課題については、次年度への継続課題として取組の強化を図っていききたい。



小学校保護者学校教育アンケート(オンライン)

当てはまる番号に○をつけてください。

お子さんの学年 () 出席番号 ()

		評価の視点	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
学習	1-①	お子さんは、授業を通して友だちと自分の意見を比較して聞き、しっかりと考える姿勢を身につけていますか。	4	3	2	1
	1-②	お子さんは、学習活動を通じて自分の意見や考えを言えるようになってきましたか。	4	3	2	1
	1-③	お子さんは、「家庭学習のてびき」で示した学年毎の目安の時間、家庭学習をしていますか。	4	3	2	1
	1-④	お子さんは、茶道教室や作法教室などを通じて、日本の文化やしきたりについて興味を持つことができるようになりましたか。	4	3	2	1
	1-⑤	お子さんは、授業や家庭学習でタブレットを使って学習することで、意欲的に学習に取り組んでいますか。	4	3	2	1
	1-⑥	お子さんは、家で読書をしていますか。	4	3	2	1
	1-⑦	お子さんは、外国語学習を通じて英語を使ってみようとしたり、外国の文化に興味を持ったりするようになりましたか。	4	3	2	1
生活	2-①	お子さんは、学校生活のきまりや交通ルール、友だちとの約束を守ることができていますか。	4	3	2	1
	2-②	お子さんは、近所の人や教員、友達に対して丁寧な言葉を使っていますか。	4	3	2	1
	2-③	お子さんは、相手を傷つけるようなことをせず、友だちと仲良くしていますか。	4	3	2	1
	2-④	お子さんは、年下の子を大事にしようとしていますか。	4	3	2	1
	2-⑤	お子さんは、学校生活を通じて自他ともに尊重されることの大切さに気付き、そうしようとしていますか。	4	3	2	1
	2-⑥	お子さんは、学習活動を通して情報モラルの大切さに気付き、人権尊重の考えを踏まえ、タブレット等の情報機器を正しく使っていますか。	4	3	2	1
健康安全	3-①	お子さんは、積極的に体を動かし、外遊びや運動をしていますか。	4	3	2	1
	3-②	お子さんは、教育活動を通じて正しい食生活のあり方に気付き、それを実践しようとしていますか。	4	3	2	1
学校	4-①	学校は、お子さんが楽しい学校生活を送ることができるように配慮していますか。	4	3	2	1
	4-②	学校は、お子さんの心に残るような学習や行事などの教育活動を実践していますか。	4	3	2	1
	4-③	学校は、様々な体験活動を通じてお子さんに生きる力を身に付けていますか。	4	3	2	1
	4-④	学校は、外部人材を招いて体験活動を取り入れた学習を進めるなど、地域の教育力を生かした教育を行っていますか。	4	3	2	1
	4-⑤	学校は、教育方針や教育活動を分かりやすく伝え、家庭と連携を図ろうとしていますか。	4	3	2	1

保護者アンケートの考察

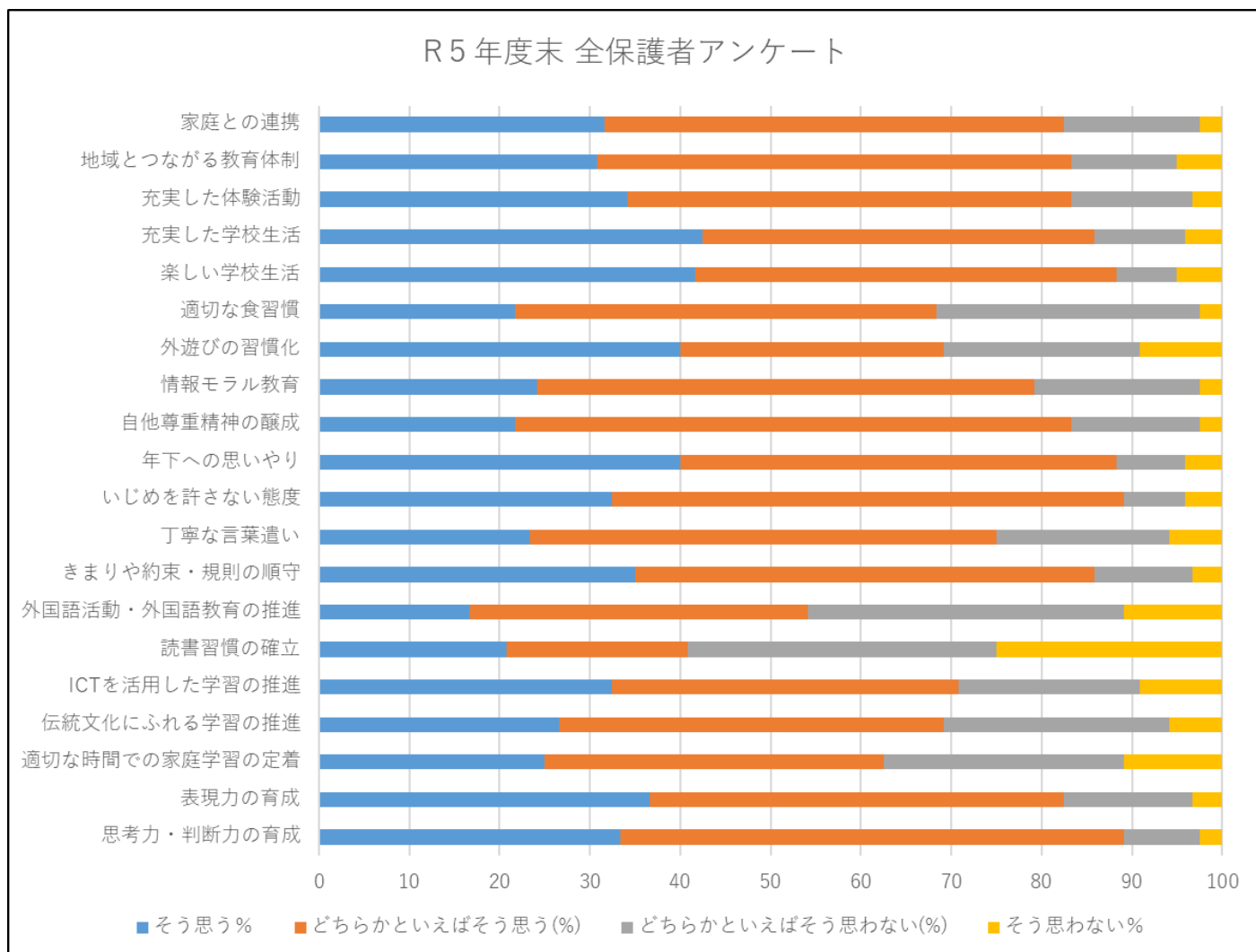
R5年度末 全保護者アンケート

全保護者			そう思う%	どちらかといえばそう思う(%)	どちらかといえばそう思わない(%)	そう思わない%	肯定意見(%)	否定意見(%)
分類	番号	項目						
学習	1-①	思考力・判断力の育成	33	56	8	3	89	11
	1-②	表現力の育成	37	46	14	3	83	18
	1-③	適切な時間での家庭学習の定着	25	38	27	11	63	38
	1-④	伝統文化にふれる学習の推進	27	43	25	6	69	31
	1-⑤	ICTを活用した学習の推進	33	38	20	9	71	29
	1-⑥	読書習慣の確立	21	20	34	25	41	59
	1-⑦	外国語活動・外国語教育の推進	17	38	35	11	54	46
生活	2-①	きまりや約束・規則の順守	35	51	11	3	86	14
	2-②	丁寧な言葉遣い	23	52	19	6	75	25
	2-③	いじめを許さない態度	33	57	7	4	89	11
	2-④	年下への思いやり	40	48	8	4	88	12
	2-⑤	自他尊重精神の醸成	22	62	14	3	83	17
	2-⑥	情報モラル教育	24	55	18	3	79	21
安健全康	3-①	外遊びの習慣化	40	29	22	9	69	31
	3-②	適切な食習慣	22	47	29	3	68	32
学校	4-①	楽しい学校生活	42	47	7	5	88	12
	4-②	充実した学校生活	43	43	10	4	86	14
	4-③	充実した体験活動	34	49	13	3	83	17
	4-④	地域とつながる教育体制	31	53	12	5	83	17
	4-⑤	家庭との連携	32	51	15	3	83	18

肯定的意見の割合が80以上	肯定的意見の割合が90～100
否定的意見の割合が31以上	肯定的意見の割合が80～89
	否定的意見の割合が41以上
	否定的意見の割合が31～40
	否定的意見の割合が21～30

・今回の保護者アンケートで肯定的意見が高い割合だった項目は、「思考力・判断力の育成」「表現力の育成」「きまりや約束・規則の順守」「いじめを許さない態度」「年下への思いやり」「自他尊重精神の醸成」「楽しい学校生活」「充実した学校生活」「充実した体験活動」「地域とつながる教育体制」「家庭との連携」の11項目であった。いずれの項目も80%以上の保護者が肯定的な評価をしており、これらの項目については、今年度、達成が図られたと考えられる。中でも「思考力・判断力の育成」「いじめを許さない態度」は89%、「年下への思いやり」「楽しい学校生活」は88%の達成率であり、これらの項目についても、ほぼ目標は達成されたものと思われる。分野別にみると、学校と生活の分野は高い評価であり、生徒指導をはじめとした教育活動について、高い評価をしてもらっていると思われる。また、学校分野は全て高評価であり、今年度の学校運営において、達成できたのではないかと考える。「ICTを活用した学習の推進」「情報モラル教育」については肯定的評価が7割台にとどまった。来年度、さらに取組の深化を図っていききたい。

・否定的意見が高い割合だった項目は、「適切な時間での家庭学習の定着」「伝統文化にふれる学習の推進」「読書習慣の確立」「外国語活動・外国語教育の推進」「外遊びの習慣化」「適切な食育」の6項目であった。「読書習慣の確立」については、肯定的意見が5割を満たさず、59%の保護者が否定的に回答している。この項目は、児童、教員ともに低評価であるが、保護者は群を抜いて低評価であり、家庭において読書をする機会が少ない様子が浮き彫りとなった。読書は、想像力や思考力、判断力の育成に有効であり、その習慣化は是非とも図りたいところである。学校では、学校司書が図書館だよりを発行して読書への意欲付けを図ったり、読書ボランティアによる読み聞かせ活動の実施などの取組を行ったりして、児童が本に親しむ機会を設けている。家庭にも協力を仰いで、児童の読書習慣の確立を目指していきたい。「伝統文化にふれる学習の推進」「適切な食育」の2項目については、児童と教員は、8割、9割の高評価であるのに対し、保護者は低評価の項目である。学校での取組についてさらに周知を図り、理解を求めていくことが必要と思われる。



児童・保護者・教員の意識比較についての考察

・三者とも肯定意見が 80%以上の高評価であった項目は、「思考力・判断力の育成」「きまりや約束・規則の順守」「いじめを許さない態度」「年下への思いやり」「自他尊重精神の醸成」の5項目であり、これらの項目については、今年度の教育活動において達成できたと考える。中でも「きまりや約束・規則の順守」は、肯定意見は教員が 100%、児童が 96%、保護者が 86%と高い達成率であり、「いじめを許さない態度」「年下への思いやり」は、肯定意見は教員が 100%、児童保護者ともに 8割後半と高評価であった。これらについては、今年度の北小の教育活動において十分に達成されたと思われる。また、「授業中の運動量の確保」「楽しい学校生活」「充実した学校生活」については三者にアンケート調査をしていないものの、二者が高評価をしている項目であり、これらの項目についても今年度の教育活動において概ね達成できたと思われる。

R5年度末アンケート児童・保護者・教員の意識比較

分類	番号	項目	肯定意見	肯定意見	肯定意見	否定意見	否定意見	否定意見
			児童%	保護者%	教員%	児童%	保護者%	教員%
学習	1-①	思考力・判断力の育成	88	89	91	13	11	9
	1-②	表現力の育成	79	83	91	21	18	9
	1-③	適切な時間での家庭学習の定着	60	63	78	40	38	22
	1-④	伝統文化にふれる学習の推進	80	69	82	20	31	18
	1-⑤	ICTを活用した学習の推進	82	71	80	18	29	20
	1-⑥	読書習慣の確立	62	41	67	38	59	33
	1-⑦	外国語活動・外国語教育の推進	86	54	78	14	46	22
生活	2-①	きまりや約束・規則の順守	96	86	100	4	14	0
	2-②	丁寧な言葉遣い	91	75	100	9	25	0
	2-③	いじめを許さない態度	86	89	100	14	11	0
	2-④	年下への思いやり	88	88	100	12	12	0
	2-⑤	自他尊重精神の醸成	95	83	89	5	17	11
	2-⑥	情報モラル教育	82	79	70	18	21	30
安健全康	3-①	外遊びの習慣化	71	69	64	29	31	36
	3-②	適切な食習慣	91	68	100	9	32	0
	3-③	授業中の運動量の確保	95		100	5		0
学校	4-①	楽しい学校生活	93	88		7	12	
	4-②	充実した学校生活	96	86		4	14	
	4-③	充実した体験活動		83			17	
	4-④	地域とつながる教育体制		83			17	
	4-⑤	家庭との連携		83			18	

肯定的意見の割合が90~100

肯定的意見の割合が80~89

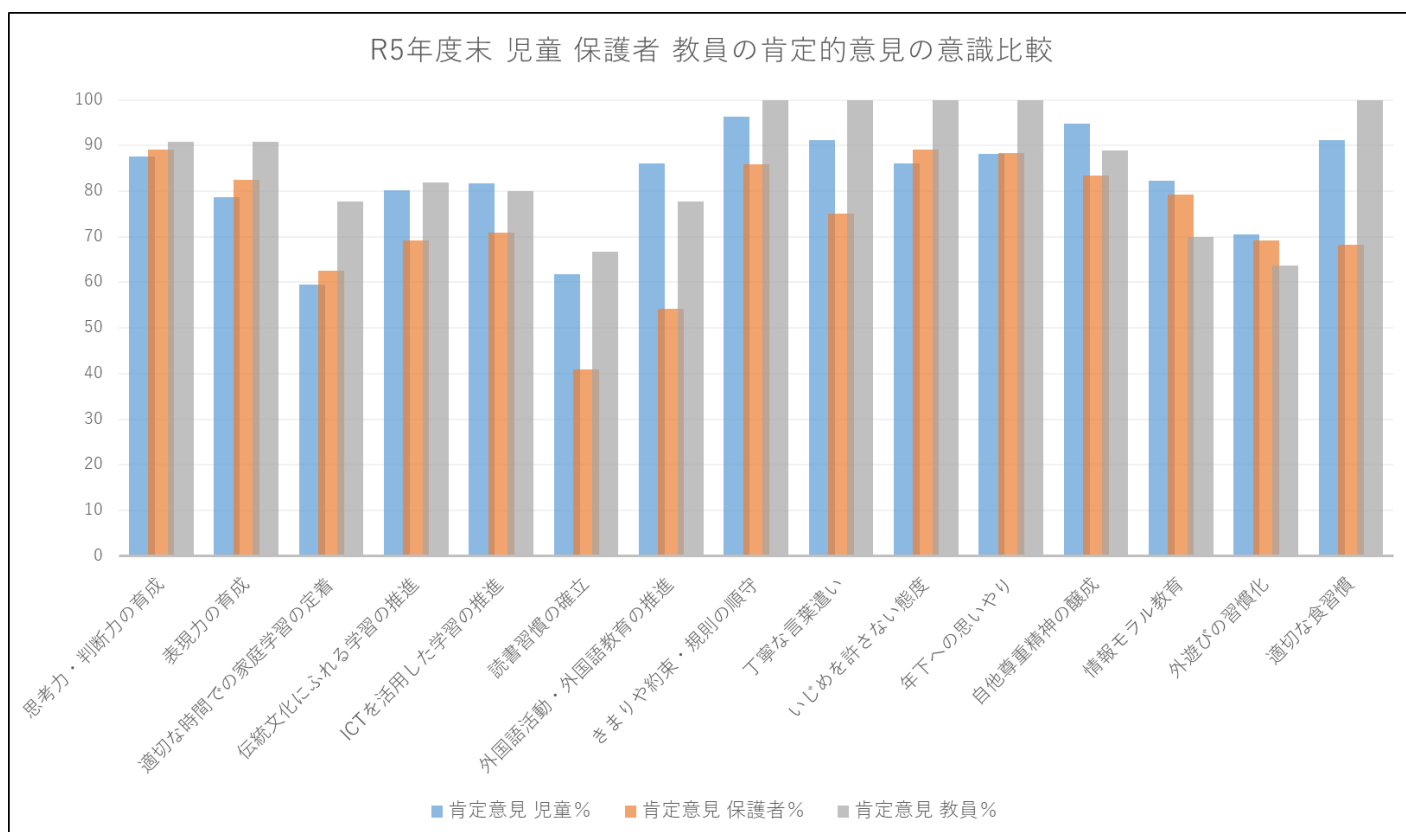
否定的意見の割合が41以上

否定的意見の割合が31~40

否定的意見の割合が21~30

・評価に15%以上の乖離が見られたのは、「適切な時間での家庭学習の定着」「伝統文化にふれる学習の推進」「読書週間の確立」「外国語活動・外国語教育の推進」「丁寧な言葉遣い」「適切な食習慣」6項目である。これらは、保護者と教員の間には15%以上の乖離が見られ、教員は高く評価しているが、保護者は低く評価しているものであり、両者間の意識に少なからず隔たりが見られた。しかし、「適切な時間での家庭学習の定着」以外の5項目については、児童と教員は高く評価している。これは、学校と家庭といった異なる場での児童の姿に違いが見られるか、児童のあるべき姿を求める水準に違いがあるのではないかとと思われる。今まで以上に、学校での児童の様子や、学校での取組を発信していくことが必要ではないかとと思われる。「読書習慣の確立」については、三者ともに低評価の項目であり注意が必要である。改善に向けた新たな取組を行う必要があると思われる。

・三者もしくは二者の評価が低評価だった項目は、「適切な時間での家庭学習の定着」「読書週間の確立」「外遊びの習慣化」の3項目である。「読書週間の確立」については、保護者の肯定意見は5割を満たさず、児童も否定的意見が38%のかなり低い評価となった。また、「適切な時間での家庭学習の定着」については、児童保護者ともに肯定評価が6割台にとどまり、家庭における学習や読書の習慣が確立されていないことが浮き彫りとなった。適切な時間で家庭学習を行うという習慣を身に付けておくことは、生徒が上級学校へ進学した際に必要不可欠なことであり、今後、より一層、家庭と連携して習慣化を図っていき



たい。読書は、想像力や思考力、判断力の育成に有効であり、その習慣化は是非とも図りたいところである。学校では、学校司書が図書館だよりを発行して読書への意欲付けを図ったり、読書ボランティアによる読み聞かせ活動の実施などの取組を行ったりして、児童が本に親しむ機会を設けている。今までの取組を継続しながら、さらに強化を図っていききたい。また、家庭にも協力を仰いで、児童の読書習慣の確立を目指していききたい。